



「獄友」で3人で歩く桜井昌司さん
(中央)ら ©Kimoon Film

死刑や冤罪考える「映画週間」

渋谷であすから「獄友」先行上映も

死刑を題材にした作品を中心に上映する「死刑映画週間」が17～23日、東京・渋谷の映画館「ユーロスペース」で催される。7回目となる今回は、再審開始決定が出た確定死刑囚と再審無罪となった元受刑者らの友情を描いた映画など8作品が上映される。

3月の公開に先駆け、初日の17日に上映される「獄友」(金聖雄監督)は、獄中で17～48年過ごした5人の男性に密着したドキュメンタリー。「袴田事件」で死刑が確定し、2014年に再審開始決定が出て釈放された袴田巖さん(81)や「足利事件」

で無期懲役となり10年に再審無罪となった菅家利和さん(71)、「布川事件」で11年に再審無罪が確定した桜井昌司さん(70)らが出演する。

獄中で無実を訴え続けた5人は、千葉刑務所や東京拘置所で組み合わせが変わりながらもそれぞれ、一緒に過ごした時期があった。久しぶりに再会し、獄中で失われた時間の重さを感じながらも、冤罪の悲惨さを訴える活動などを通じて手を取り合い、前向きに生きる姿が描かれている。

主催する市民団体「死刑廃止国際条約の批准を求めるフォー

■上映作品

- ・獄友(日本、2018年)
- ・新・あつい壁(日本、07年)
- ・弁護人(韓国、13年)
- ・プリズン・エクスペリメント(米国、15年)
- ・HER MOTHER 娘を殺した死刑囚との対話(日本、16年)
- ・ヒトラーへの285枚の葉書(はがき)(ドイツなど、16年)
- ・スペシャリスト～自覚なき殺戮(さつりく)者～(イスラエルなど、1999年)
- ・白と黒(日本、63年)

ラム90」の太田昌国さん(74)は「冤罪は無実の人に罪をきせる犯罪だ。現実起きた理不尽な事件を背景にした映画を通して、冤罪が根絶されない現実、死刑が是とされる社会のあり方について考えて欲しい」と話す。

期間中は毎日4作品が上映され、ゲストのトークショーもある。料金は1作品ごとに一般1500円。上映スケジュールはユーロスペースのウェブサイト(<http://www.eurospace.co.jp/>)か電話(03・3461・0211)で。

(小松隆次郎)